

# 地産地消に関する中学生の認識調査と指導計画の作成

11506 小瀬春歌  
指導教員 市川智史教授

## 1. はじめに

近年、地産地消は地域農産物の利用の観点、食の安心・安全の観点、輸送に伴う環境負荷の観点などから注目されてきている。また、地産地消は学校教育においても取り入れられており、「技術・家庭」の家庭分野で調理実習の中で取り扱われることや、食育の観点から学校給食指導で取り上げられることが多い。調理実習や学校給食で地産地消を学ぶことも大切ではあるが、環境に対する負荷を中心とした環境教育の観点から学習することが重要であると考えた。しかし、調理実習や食育以外では、中学生の認識を調べて指導計画を作った事例はない。そこで本研究では、まず、中学生の地産地消に関する認識を把握し、それをふまえて、環境教育の観点からの指導計画を作成・提案することを目的とした。

## 2. 方法

調査は質問紙調査とした。地産地消を学習する以前の中学校1年生を対象とし、亀岡市の中学校で行った。本調査では10個の問を設定し、回答を求めた。

表1 調査項目

野菜に関する意識	栽培活動経験の有無	栽培活動の好嫌度	地元野菜の知識
	好きな野菜の種類		
地産地消に関する知識・意識	旬に関する意識	産地に関する意識	地産地消の認識内容
	地産地消という用語の認知	環境配慮行動	自由記述

## 3. 結果

調査の結果から、学校で地産地消を学習していない中学1年生でも、約4割の生徒が地産地消という言葉を知ったことがあることがわかった。しかし、地産地消の意義を「安心・安全」としてとらえている生徒が多く、「輸送距離」という環境保全の観点からとらえている生徒はごく少数であった。地産地消を知ったことがある生徒でも、その意味や意義は十分に理解していないと考えられる。

環境保全の観点から地産地消を理解する上で前提となる野菜の産地という点で見れば、地元産の野菜に関する知識が十分ではなく、野菜の産地もあまり意識されていないことがわかった。さらに、野菜の旬に関して見れば、全体的には旬に関する意識は低いものの、地産地消を知ったことのある生徒のほうが旬を意識する傾向が見られた。

表2 地産地消の認識内容

野菜を安く買うことができるから	安心・安全な野菜を食べることができるから	野菜を輸送する距離が短くてすむから	食料自給率の向上につながるから	その他
20.7%	59.8%	7.6%	9.8%	2.2%

## 4. 指導計画の作成

指導計画は、中学校1年生の総合的な学習の時間で行うことを想定し、4時間構成とした。指導計画のねらいとして、以下の3つを設定した。

地産地消の意味や意義を理解させる。

地元産の野菜を取り上げ、産地を意識させる。

野菜の輸送距離と消費エネルギーの関係から、地産地消について考えさせる。

表3 指導計画(案)

時	学習内容
第1時	地産地消の意味、メリットを知る。
第2時	地元産の野菜について知る。
第3時	輸送距離を調べて環境と地産地消の関わりについて考える。
第4時	地産地消をどのように実践していくべきか考え、まとめる。